

農村における自動車の普及の影響

— 伊賀上野近辺の農村について —

明治大 長谷川 昭彦

自動車時代と称されるように現在の日本において自動車普及はめざましい。急速なモーターゼーションの波は全国の自動車用の高速道路網の整備発達とあいまつて農村地帯にも及び、農村生活に大きな影響をあたえている。

この報告は、昭和四十三年八月、伊賀上野近辺の三重県阿山郡大山田村の甲野、畑村の両部落、および上野市中瀬地区について、自動車を所有する農家を選び、自動車普及の影響に、関する面接調査をおこなつた調査報告である。

昭和三十九年に完成した大阪と名古屋を結ぶ（厳密には天理市と亀山市とを結ぶ）名阪国道は、大阪商圏と名古屋商圏との中間点である伊賀上野の街に沿つて伊賀盆地を縦貫している。このような道路は都市と都市とを結ぶというだけでなく、農村を都市に結ぶという機能を果している。農村における自動車の普及は一方においては生産の場である圃場と生活の場である農家とをより近接せしめる機能を持つてゐることはいうまでもないが、他方では都市と農村とを結ぶ可能性を現実化するものである。すなわち、農村における自動車の普及は、第一に限定され封鎖されていた農村住民の従来の行動圏をより拡大し、大都市や地域的中心都市への連絡をいし依存性をより強くする。第二に、例えば農村

後継者問題にあらわれるような農村の都市との隔差意識を變更させ平準化する傾向を作る。第三に、現在の自動車普及が貨物車よりも乗用車への志向性をもつてゐる限り、生活費への圧迫という現象がみられ、また、道路や交通安全施設の発達が及ばない限り、事故などの公害の問題が新しい問題を醸成してくるのである。